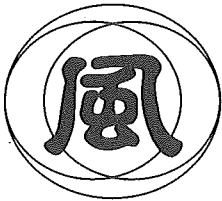


関西いのちの電話

こころがつかれたら・・・06-6309-1121



「佐賀のがばいばあちゃん」

広報・編集チーム N. K

映画「佐賀のがばいばあちゃん」を観た。

島田洋七著の本が映画化されたもので、彼の幼年時代から中学卒業の頃までの生活が描かれている。

彼は、広島生まれであるが、事情あって、幼い頃から中学卒業まで、佐賀のばあちゃんのうちにあずけられ、その間母に会う機会もなく、ばあちゃんっ子として育った。

ばあちゃんはひとり暮らしで、生活は豊かではない。いや、見るからに貧しい。川べりに家があって、川上から流れてくる「もの」がせき止められるようになっている。お盆には、トマトや茄子などの野菜がひっかかり、それをお供えものにする。「川は、スーパーじゃけん」と言って、ばあちゃんは得意満面である。

洋七が「ばあちゃん、腹減った」と言えば、「腹減ったと思うから腹が減る。腹減ってないと思えば腹は減らん。気のせい!」。試験勉強で「英語がわからん!」と洋七が嘆くと、

「いつまでも起きとらんで、はよう寝んしゃい!日本人じゃけん、わからん。と書いときんしゃい!」と言いながら、電気代がもったいないと言わんばかりに、部屋の電灯を消していく。どんなに貧しくとも、そして、少年洋七が母から離れ、どんなにかさびしい思いをしていますが、ばあちゃんは常に明るく、元気に振舞う。そして、洋七は学校の先生にも守られ、すくすくと育って行った。

中学校の卒業式が終わり、洋七がいよいよ母のもとへ帰ろうとするとき、ばあちゃんは、すすのついた鍋をタワシで一生懸命こすりながら、洋七には目もくれないで「はよう行きんしゃい!はよう行きんしゃい!」と声を張り上げ、洋七が何度か後戻りしながらも、ついに家を出て駆け出すと、ばあちゃんは「行くなー!」と大声で叫び、家の中で一人泣きじゃくった。

わたしも歳なんだろうか。映画の世界で、久しぶりに笑い涙してしまった。

第24回公開講座

◇ 「歩かれへんけど歩いてる」 ◇

■ 第24回 公開講座の感動と反省

去る3月25日、第24回関西いのちの電話主催の公開講座が開催されました。今回は、大阪市立大学教養学部非常勤講師の牧口一二さんに来ていただき「歩かれへんけど歩いてる」というタイトルで講演していただきました。車椅子で生活されている牧口さんは、障害のある人の自立観を障害のある人の視点で穏やかに分かりやすく話されました。「私の人生は動かさない右足で歩いてきたようなものです」とサブタイトルの「いのちを活かす道について」語られました。いのちの電話の相談は、精神的、身体的、或いは社会的な困難の渦中からのものですが、「障害者と高齢者がいなくなればこの世は必ず枯れます」といったお話が、特に強く心に残りました。講演後、回収したアンケート用紙には「生きる勇気と希望を与えていただきました」等々、数多くの感動の言葉が並んで

いましたが、「参加者が少なくて非常に残念でした」といった内容も多くありました。

今回、380名近くが入場出来る会場に参加者が100名に満たず、講演の冒頭には講師の牧口さんが「私の役不足で申し訳ありません」と発言されるような事態になりました。参加者の減少は広報企画チームの力不足も含め原因は多々あるとは思いますが、何よりも公開講座という組織としての活動には、相談員と関係者の参加協力が必要不可欠です。

近年、みなさんに後方支援していただいているという実感が少なくなってきました。24年間の歴史ある公開講座を存続させるためにみなさんの参加意識を今一度高めていただき、今後のご協力を強く願っています。

(文責) 広報・企画チーム



相 談 員 ノ ー ト

■ ジェンダーと私

34期 K. H

仕事においても福祉の現場にいる私は、家族の問題、精神の病気、子どもや高齢者の環境、就労など、さまざまな人の「生きる問題」に直面するのが日常である。

自己肯定できずに育ってきた人、「…ねばならない」と思っているでもそれが出来ないことに苦悩する人、アルコール依存、DV、さまざまな精神症状……。その根底に、「女だから」「男だから」という「らしさ」の規範にとらわれて息苦しさを感じていたり、「妻」「母」「一人前の男」役割に縛られているなど、実に多くのジェンダー（社会的性別）問題が潜んでいるのを強く感じる。

私自身は、兵庫県男女共同参画センター主催の女性問題・男性問題の講座で政治・経済、歴史、社会学などを絡めながらのジェンダーを学び、

自分の社会的なポジションを客観的に見ることができるようになったことで、とても気持ちが楽になった。結婚して子どもを生んでしまえば、私の残りの人生は野球でいう「消化試合」のようなものなのか。そんなふうに思っていた胸のつかえが、スーッと晴れていったのだ。

今の私は本当に多忙である。週5日フルタイムで働き、平日の夜・休日には複数の市民活動グループの集会やボランティアに参加し、家に帰れば高校生の息子2人の夕飯や洗濯、弁当の用意もある。付き合いが広い分、飲み会も増える。

しかし、息子たちに「人生の中で、今が一番楽しい！」と私は言う。

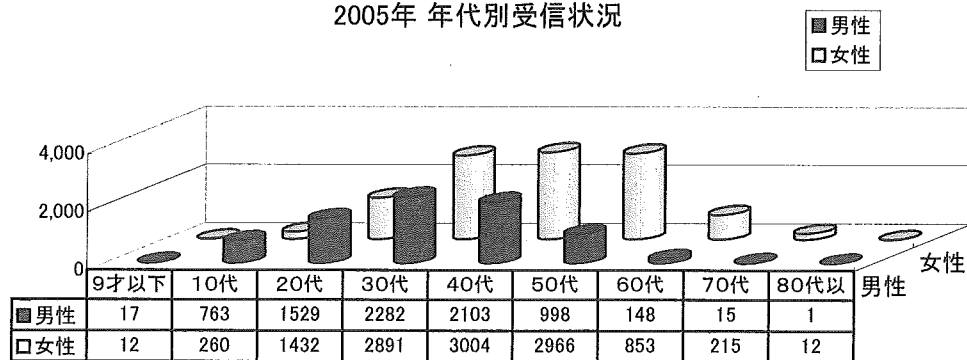
「ふ～ん、そうなん？」と返す息子の表情が、私にはとても嬉しい。

2005年 受信状況の傾向

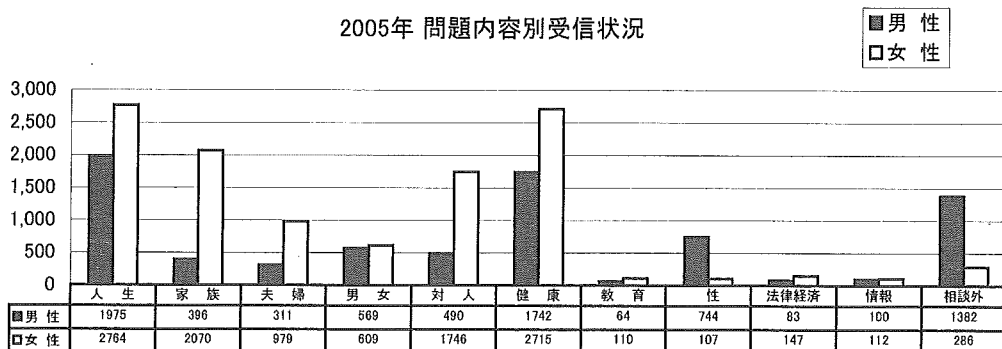
受信総数 19,501 件、昨年比 16 件の微減。年代別でみると、30代 26.5%、40代 26.2%、50代 20.3%、20代 15.2%。内女性 40代 15.4%、50代 15.2%、30代 14.8%で総数比で 45.4%を占め、男性は 30代 11.7%、40代 10.9%となっている。問題内容別では、人生 24.3%・健康 22.9%・家族 15.9%・対人 13.8%。いずれも女性からの相談が多い。

昨年比で人生が 1 位、健康が 2 位と逆転し、4 位までの%はそれぞれ若干増加している。男性のみでは、人生 25.1%・健康 22.2%となり、合計で 47.3%である。性と相談外(テレフォンセックス)の総数比は 10.9%。こころの病を持つ人の相談は 9,519 件総数比 48.8%、内治療中は 35.4%。いずれも微増。自殺傾向は 2,272 件で総数の 12.0%。昨年比 0.3%減。自殺傾向に占める精神障害の訴えは、70%。自殺傾向総数比では 30代 32.6%、40代 26.1%、20代も 20.4%で、自殺総数の 79.1%を占め、同年代の女性で 50.1%を占める。2004 年と比較して特筆すべき変化はないと言える。

2005年 年代別受信状況



2005年 問題内容別受信状況



2005年の

受信状況から

カードを読む会

3 2年間の受信件数

2005年末累計

570,740件

1年間の受信件数は

総件数：19,501件

男女比：男 7,856

女 11,645

40.3 / 59.7%

ボランティア： 366名

(2005年5月登録)

総対応時間：

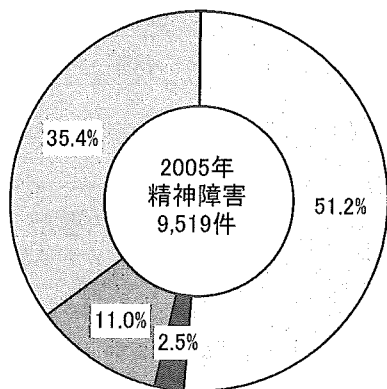
12,045時間36分

(平均37.1分)

(2006/5/20)

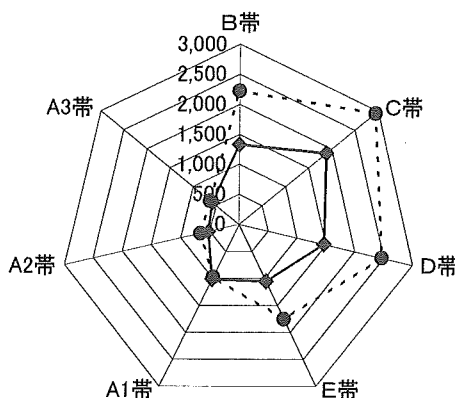
<文責:長尾文雄>

□無 ■歴有 □疑い有 □治療中



担当時間帯別受信数

—◆— 男性 - - ● - - 女性



チャリティコンサート

生きるパワーと祈りのマリンバ - 種谷睦子の調べ -

マリンバ・ソロ：種谷 睦子
マリンバ・アンサンブル：種谷 睦子／後藤由里子／須清 智子／松村 有里
ピアノ伴奏：今岡 淑子
司会・解説：日下部吉彦

日時／2006年8月4日(金)
開場／18:30 開演／19:00 受付／18:00
場所／いずみホール

チケット代 前売 2,000円 当日 3,000円

—お問い合わせは—

関西いのちの電話事務局
TEL 06-6308-6868

*当日は、座席指定です。
未就学児童のご入場はご遠慮ください。

追悼

脇坂尚子さんを偲ぶ・・・

関西いのちの電話理事の脇坂尚子さんが、6月11日に亡くなりました。享年75歳でした。脇坂さんは、理事や、グループリーダー・スーパーバイザーとして、長きにわたり関西いのちの電話の活動に貢献されました。

25周年記念誌に寄稿していただいた文章には、「朝日川柳」の投稿句・・・『吹っきた いのちの電話ありがとう』・・・を引用され、「いのちの電話に連なる者として、素直な喜びと共に、何者かに感謝したい思いが湧いている」と述べられています。

私たち相談員は、脇坂さんから「良き聴き手とは・・・」、として多くのことを学び、指導を受け、その温かな人柄により見守られてきました。これからもその思いを受け継いでいくつもりです。

こころよりご冥福をお祈りいたします。

N. K

相談電話受信件数

受信月	2月	3月	4月	5月	6月
受信件数	1,512件	1,584件	1,635件	1,644件	1,655件
相談員数(延)	405人	415人	440人	449人	440人

編集後記

昨年の全国の自殺者は、32,552人と、8年連続で3万人を超えた。今国会で、自殺を減らすための「自殺対策基本法」が成立したが、具体的な取り組みはこれからだ。

法としてでもなく、プロとしてでもない我々相談員は、助けを求め、孤独を訴える人の生の声をどう拾い上げ、聴いていけるか。改めて自分自身に問いかける。

K. M

* 今月号から紙面レイアウトを新しくしました。
ご了承ください。

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
発行人 今村 一之 編集 広報・編集チーム
ホームページアドレス <http://www.age.ne.jp/x/kaind/>